

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年9月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2670200217
法人名	株式会社 ウェルネット
事業所名	洛和グループホーム円町
所在地	京都市上京区下立売通御前西入大宮町498-1 (電話) 075-466-5858

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	大阪市北区天満橋2丁目北1番21号八千代ビル東館9階
訪問調査日	平成19年8月7日
評価確定日	平成19年10月17日

【情報提供票より】(2007年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)12年4月1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	10 人
利用定員数計	9 人
常勤	6 人
非常勤	3 人
常勤換算	7.4 人

(2) 建物概要

建物構造	木・鉄骨 造り
	2 階建て、1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000 円	その他の経費(月額)	50,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1266 円		

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均	最低	77 歳	最高	90 歳
	82 歳				

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	洛和会丸太町病院 和行会丸太町クリニック
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当該ホームは、医療、介護、健康保育、教育研究の総合ネットワークを持つ洛和ヘルスケアシステムの中のグループホームの一つです。京都の街中のアパートの2階部分をグループホームとして改装し、居室や共有スペースは和風な部分が多く残っており、職員の工夫や配慮もあり、落ち着いた生活できる雰囲気があります。職員教育は法人により体系的に研修が行われていたり、ホームの運営にも法人からのバックアップ体制が整っています。また、自己評価を含めた外部評価や運営推進会議の内容、職員・家族アンケートの結果等を、少しずつサービスの質の向上につなげて行こうという前向きなホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価から、ホームの入り口がわかりにくいと指摘を受け、ホームを訪問しやすいようにボードを取り付けたり、洗剤が洗濯室の目の付く所にあつたため収納場所を工夫したり、できることから職員会議で話し合い改善に取り組んでいます。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員で自己評価を行うために、全員にコピーを配り意見をもらい、それを取りまとめて行っています。結果については、会議で話し合い課題の改善に取り組んでいます。昨年、ホームを訪問しやすいようにボードを取り付けたり、洗剤の収納場所を工夫したり、できることから改善に取り組んでいます。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、家族を始め自治会、地域包括センターから参加があり、ホームの様子や近況などを紹介し、情報交換を行っています。老人会の入会の勧めを受けたり、避難訓練の協力の依頼を行っています。今後、話し合われたことを具体化していく予定です。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホームの行事や職員の紹介などが載せられたホーム便り、預かり金の出納帳と領収書、日々のバイタルサインや食事量、入浴状況などが記載してあるチェック表を毎月ごとに郵送し、家族にホームでの個々の暮らしがわかるよう伝えていきます。ホームの玄関に、意見箱を設置し、面会時や電話などで希望や要望を聞くようにしています。また、家族へ半年に一度アンケート調査を行っています。個々に対しての希望も多く、それぞれに対応しています。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域で行われている行事を見に行ったり、散歩の際には近隣の住人と井戸端会議をしたり、自然に地域の中での生活が送れるような支援をしています。老人会の入会を薦められており、近々に入る予定です。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の掲げた理念を基に、職員と共に作った「その人らしく暮らしていくことを支える」という理念を掲げています。	○	地域の中で暮らしていくことについての内容を加えられ、地域とのつながり、を大切にしていくことの意識が強くなり良いのではないのでしょうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの玄関に掲示し、月に1度の会議時にも意識し、話し合っています。また、管理者は職員個々により理解してもらおうと、日々のケアの中で気が付いたときにも話し合っています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われている行事を見に行ったり、散歩の際には近隣の住人と井戸端会議をしたり、自然に地域での生活が送れるような支援をしています。	○	老人会の入会を薦められており、近々に入る予定です。入会後には、地域での活動が増えたり、情報の交換ができることを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を行うために、全員にコピーを配り意見をもらい、それを取りまとめて行っています。結果については、会議で話し合い課題に取り組んでいます。昨年、ホームを訪問しやすいようにボードを取り付けたり、洗剤の収納場所を工夫したり、できることから改善に取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、家族を始め自治会、地域包括センターから参加があり、ホームの様子や近況などを紹介し、情報交換を行っています。老人会の入会の勧めを受けたり、避難訓練の協力の依頼を行っています。	○	情報交換などができてきているので、その内容を実際のサービスに活かすために具体化していかれることを期待します。

洛和グループホーム円町

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の事業者連絡会に出席しています。直接には市の担当職員と行き来したりする機会はありません。	○	管理者の交代を期に、区の担当者に挨拶やボランティアや入居者が参加できる行事の情報などの情報交換からはじめてみてはいかがでしょうか。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームの行事や職員の紹介などが載せられたホーム便り、預かり金の出納帳と領収書、日々のバイタルサインや食事量、入浴状況などが記載してあるチェック表を毎月ごとに郵送し、家族にホームでの個々の暮らしがわかるよう伝えています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関に、意見箱を設置し、面会時や電話などで希望や要望を聞くようにしています。また、家族へ半年に一度アンケート調査を行っています。個々に対しての希望も多く、それぞれに対応しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動や退職の職員には前もって入居者には伝えないようにし、交代後も混乱がないよう、入居者の様子に配慮しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任、現任の職員に分け、体系的に研修を行っています。内部及び外部研修共に受講できるよう計画立てられ、受講後は研修記録を回覧したり伝達研修を行っています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や実践者研修の際に情報交換をしたり、困っていることに対してアドバイスをもらったりし、ホームで話し合いながらサービスに取り入れています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人も含め見学にきてもらい、雰囲気を見てもらいますが、本人の都合で来られない時もあります。入居後慣れるまでは、常に声をかけ目配りし、自身で居場所と感じてもらえるよう居心地の良い空間を作りをしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	互いに喜怒哀楽を共有し、一緒に生活している事を実感しながら支援をしています。人生の先輩として調理や掃除など様々なことを教えてもらう姿勢をもち共同生活をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式でアセスメントを行い、本人の生活歴やどのような暮らしを望まれているのかを把握しています。また、その時々希望や意向は、ファイルを用いて付箋に記入し、情報を共有しサービスに活かしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の面会時や必要に応じて電話で家族とコミュニケーションをとり、介護計画についての意見や意向を聞き、職員間で話し合い介護計画を立てています。	○	面会にあまり来られない家族からの意向が聞き取りにくい状況です。法人から希望の記入用紙を活用しながら、更に具体的な希望が聞かれることを期待します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにアセスメントの見直し、カンファレンスを行い、介護計画の評価を行い見直しを行っています。また、入居者の状況の変化があったときにも同様に見直しを行っています。		

洛和グループホーム円町

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や買い物などの希望に合わせた支援を行っています。	○	利用者一人ひとりの個別対応の外出を行ったり、地域の行事やホームの行事など、地域との交流を目指しています。工夫をしながら、徐々に取組んでいくことを期待します。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人と家族と話し合い、かかりつけ医を決めています。提携医からは月に2回往診を受けたり、訪問歯科、訪問看護を受けています。また、かかりつけ医が外部の入居者には同行援助も行っています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に法人で打ち出されている見取りの指針について説明をしています。入居者の状況に合わせ必要になった時点で、家族・医師・訪問看護師・介護職員等関係者で細かに検討することとなっています。現在までには、対象にあたる入居者はおられません。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々の入居者が理解できるような言葉を選び、不用意な言葉遣いは使わずプライバシーに配慮しながら、コミュニケーションをとっています。また、個人記録等は、棚の中に適切に保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起きる時間、寝る時間は決めることなく、個々のペースで生活できるように支援しています。入浴や急な外出希望などは、職員の人数が許す限りで意向に沿えるよう努力しています。		

洛和グループホーム円町

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は届けてもらっていますが、足りないものを一緒に買いに行ったり、調理では食材の皮をむいたり刻んだりし、食事作りを行っています。一緒に食卓を囲み同じ食事を食べながら、さりげなくサポートしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の人数の多い、午後に入浴することは決められていますが、希望に合わせて午前や夕食後にも入浴できます。個々の希望に合わせて、毎日はいっている入居者もいたり、楽しめるよう支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日課になっていることは、入居者それぞれに違い、朝のコーヒーの後の掃除やプランターの花の水遣り、鈴虫のえさやり、牛乳パックや新聞の整理など、以前の生活で行っていたことなどを行うことが楽しみごとになるよう支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物に行ったり、職員が付き添える時には一緒に散歩に出かけたりしています。また、家族と一緒に出かける行事も2ヶ月に1度くらいに計画しています。	○	現在、入居者が外出できる時間が限られていますが、下肢の筋力の維持や気分転換のためにも、外に出かけることが楽しみごとになるような支援を期待します。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や居室には鍵をかけず、センサーを用いて見守りを行っています。職員全員が鍵をかけないことの意味を理解し、取り組んでいます。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、地域住人も参加する消防訓練を行っています。運営推進会議にも避難経路や協力体制についても議題にあげ話し合われています。また、2ヶ月に1度ホーム独自に避難訓練を行っています。		

洛和グループホーム円町

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容を記録に残し、食事摂取量は毎食チェックし記録しています。水分の摂取量については一日の水分量が不足しないように、こまめに摂取できるように支援しています。法人の栄養士のチェックを受けアドバイスを受けるシステムがあり、栄養バランスを確認するためにも、チェックを受ける予定をしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの共有空間は家庭的な雰囲気大切にされ、個々が過ごしやすいように、家具が配置されています。また、生活感や季節を感じることができる空間となっていました。蛍光灯には、和紙でカバーしてあり優しい光になるよう配慮しています。	○	共有空間から浴室に行く出入りに躓きやすい段差があります。段差を意識できるように、目立つようにラインをひくなどの対策を考えられることを期待します。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は和室になっていますが、それぞれの生活に合わせて家具やテレビなどを持ち込んでいます。施設から移られてくる人は、持ってくるものが少ない傾向がありますが、家族と相談しながら徐々にその人らしい居室作りに取り組んでいます。		